

「読むこと」の領域における授業づくりのヒント

低学年編

1. 低学年で身に付けたい「読むこと」の能力や態度

時間や事柄の順序に従って内容を押さえて読む力

場面の様子を押さえながら想像を広げて読む力

楽しんだり知識を得たりするために読書しようとする態度

2. 思考力・判断力・表現力を育むための1時間の言語活動の例

◎すきなところを見つけて「読書便」で教えてあげよう！

例えば

- ◆自分が読んだ昔話のすきなところを教えてあげよう！
1年：「むかしばなしがいっぱい」

◎ひみつを見つけて「あのねカード」で教えてあげよう！

例えば

- ◆みんなだけが知っているかえるくんのやさしさをがまくんに教えてあげよう！
2年：「お手紙」

◎「○○のひみつ！」や「○○の作り方」を紹介するための言葉を見付けよう！

例えば

- ◆「生き物の名前」「問い」「体の特徴」「答え」の順番やつながりに気を付けながら、生き物のかくれ方を紹介するための言葉を見付けよう！
1年：「うみのかくれんぼ」
- ◆わかりやすく説明するための工夫をみつけよう！
2年：「しかけカードの作り方」

◎読み比べて、お気に入り○○カードの書き方を知ろう！

例えば

- ◆三つの例の書き方の似ているところを見つけて、「お気に入り乗り物カード」に書く事柄や書く順序を知ろう！
1年：「じどう車くらべ」
- ◎順序に気をつけて読み、たんぼぼ新聞をつくろう！
- ◆一番すごいとおもったちえをえらんで、分かったことや思ったことを書こう！
2年：「たんぼぼのちえ」

【その他の活動例】

- ◎音読劇（ペープサート）で紹介するお気に入りの場面を選び、お気に入りの理由をまとめよう！
- ◎大好きな登場人物を紹介するキャラクターカードを作ろう！
- ◎アニメーションで、お話の大体の流れや出てくる順番をつかもう！

3. 主体的な学びを生み出すために有効な手立て

視覚化を図る

例えば

◇第1場面と第4場面の挿絵やまとめを黒板の両サイドに提示することで、お話の中で何が変わったのかをとらえやすくする。
(物語文)

◇書かれている内容で段落を色分けすることで、説明の順番をとらえやすくする。
(説明文)

環境の整備・記録活動の工夫

例えば

◇単元の導入時に、教室の中に「乗り物の本」や「アーノルド・ローベルの本」など単元の学習に関連する図書コーナーを設置し、並行読書に取り組みせる。
◇ブックリストを用意して読み終えたらシールを貼らせたり、お気に入りのページに付箋を付けさせたりする。また、読書貯金の形式で取組をさせたり、学級読書アンケートを実施したりする。

わかった！
言えた！
楽しかった！



中学年編

1. 中学年で身に付けたい「読むこと」の能力や態度

登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて叙述を基にして読む力

目的に応じ、内容の中心をとらえ段落相互の関係を考えながら読む力

目的に応じて必要な情報を得るために幅広く読書しようとする態度

2. 思考力・判断力・表現力を育むための1時間の言語活動の例

◎中心教材を読み深め、同じテーマの作品を読み広げよう！

例えば

◆「一つの花」のリーフレット作りを活かして、戦争をテーマにして読んだ本の中から『おすすめ本リーフレット』を作ってみよう！

4年：「一つの花」



◎まとまりをとらえて読み感想を話そう！

◆本文の書き方にならって自分の作ってみたいこまの紹介カードを書こう！

3年：「こまを楽しむ」

◎調べたことを整理し発表しよう！

◆資料「手と心で読む」を読み深め、もっと知りたいことを図書館で調べて新聞にまとめよう！

4年：「だれもが関わりあえるように」



◎○○を紹介する文を書くために、筆者の説明の仕方の工夫をつかもう！

例えば

◆食べ物のひみつを紹介するために、「すがたをかえる大豆」を読み、筆者の説明の仕方の工夫をつかもう！

3年：「すがたをかえる大豆」

◆伝えたい内容に合わせて写真を選び、「私のアップとルーズ記事」を書くために、筆者の説明の仕方の工夫をつかもう！

4年：「アップとルーズで伝える」

【その他の活動例】

◎自分の好きな説明文を選び、説明文の家にまとめて、構成をつかもう！

◎語り手の視点を見付けるために、「ぼく・私読み」をしてみよう！

◎何が、どのように変わったのかをつかむために、設定場面（前ばなし）と結末場面（後ばなし）を読み比べてみよう！

3. 主体的な学びを生み出すために有効な手立て

言い換えや書き換えをさせる

例えば

◇2文を1文に1文を2文に書き換えさせたり、尾括型を頭括型に書き換えさせたりすることで、多様な表現方法を身に付ける。

◇「つまり」で抽象化させたり、「例えば」で具体化させたりすることで、論理的に思考できるように鍛える。

◇友達の発言を自分の言葉で言い換える場面をつくることで、しっかり話を聞こうとする態度を養う。

教材にしかけをする

例えば

◇段落をばらばらに並べて提示することで、段落相互の関係に着目させる。（説明文）

◇接続語を穴抜きにした文章を提示し、そこに当てはまる接続語を考えさせることで、文と文のつながりをつかませる。（説明文）

わかった！
なるほど！
使いたい！



高学年編

1. 高学年で身に付けたい「読むこと」の能力や態度

文章全体から内容や要旨を把握する力

筆者の主張や作品の心に対して自分の考えをまとめる力

読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度

2. 思考力・判断力・表現力を育むための1時間の言語活動の例

◎紹介したい本を読み返し、読書紹介カードにまとめる内容を書き出そう！

例えば

◆心に残った言葉・文などを引用し、本を紹介しよう

5年：「千年の釘にいどむ」
「百年後のふるさとを守る」

◆自分と本との関わりを振り返り、一番心に残っている本を紹介しよう！

6年：「森へ」



◎書き手の意図をとらえ、自分の考えを發表しよう！

例えば

◆文の構成や表現に注意しながら、筆者の考えや、その進め方に対する自分の意見を發表しよう！

5年：「生き物は円柱形」

◆自分の生活での体験などから具体例を挙げ、考えたことを發表しよう！

6年：「時計の時間と心の時間」

◎○○について考えたことを紹介するために、説明のしかたや資料の効果的な活用方法を学ぼう！

例えば

◆筆者の説明のしかたの工夫を見つけ、○○についてグラフや表を用いて書こう！

5年：「天気を予想する」
「グラフや表を用いて書こう」

◆わたしたちの町のよさについて考え、意図が伝わるように、資料を効果的に活用して發表しよう！

6年：「町のよさを伝えるパンフレットを作ろう」

【その他の活動例】

◎テーマについて複数の立場に分かれ、それぞれの立場や意図を明確にしてパネルディスカッションをしよう！

◎物語を読んで感じたことや考えたことが表れるように、「語り」をしよう！

◎人物関係図にまとめながら、作品が強く語りかけてきたことをまとめよう！

3. 主体的な学びを生み出すために有効な手立て

考えの深まりの見える化

例えば

◇友達の見解を聞いて、自分の考えの変わったところや新たに気が付いたことを赤えんぴつで書き加えさせる。

◇単元の導入時と学習後に、同じ課題に対して再度考えをまとめさせる。

話し合いの仕方の確認

例えば

◇グループで話し合いをするときには必ず役割分担をして話し合う。(司会・記録・計時・発表)

◇話し合いの進め方を確認する。

①問題を確かめる②問題の原因を考える③原因を整理して解決方法を話し合う④意見をまとめる

◇論理を用いて話す。

比較(前は○○だったけれど・・・)

具体化(例えば・・・)

抽象化(つまりこれは・・・です)

わかった！
深まった！
使えた！

